

# 令和5年度 自己評価書

真庭市立久世第二保育園

## 1. 久世第二保育園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保障し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。

### 保育方針

- ・子どもが自ら生き生きと活動することを通じて健全な心身の発達を図る。
- ・家庭との連携を大切に、子どもの成長を共に喜ぶ。

### 教育・保育目標

- 「居心地の良い環境の中で育ち合う保育」
- 生き生きとした元気な子ども
  - 自分の思いを相手に伝えられる子ども
  - 友達と共に育ち合う子ども

## 2. 本年度の重点目標

“子どもも保護者も職員もつながりを大切に。  
心も体も元気で明るく笑顔あふれる保育園”

### ○本年度研究テーマ

「言葉で表現する力を育むための保育者の援助を探る」  
～心が動く遊びを通して～

### 重点目標

- ・愛着と自己肯定感のもとで夢中になって遊び込み確かな遊びにつながる保育
- ・体を動かす様々な遊びを見つけ、挑戦し面白さ味わえる保育
- ・異年齢児交流を通して、自分も友達も大切にしながら豊かな気持ちを育む保育

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	子ども主体の保育計画を立案し実践する。毎月の反省・考察を職員間で共有し、反省を踏まえ見直しをもって翌月の計画立案に活かした。	3
行事	行事内容は、会議で話し合いを重ね計画した。行事後は反省で課題を出し次へ繋がるよう努めた。保護者参加の行事は役員会で理解を得た。	3
組織・運営	職員一人一人が責任を持ち、連絡を密にしながら組織として連携・協力し園運営がすすめられるようにした。	3
学級経営	子どもとの信頼関係を大切にしながら、子どもの内面理解に努め保育する。今後も職員で連携し子どもの育ちを見守っていききたい。	4
特別支援教育	子どもの様子を伝え合い、園全体で共通した支援ができるようにしていった。子どもの育ちから一人一人に沿った支援をおこなった。	3
安全管理・保健指導	毎月安全点検を行い安全維持に努めた。全職員が危機管理意識を高め日々の保育に携わることが今後も大切となる。	4
研修（資質向上）	研究会に向け、視点を定め記録をとりワークショップを重ねることでより一層、子ども理解、援助の在り方を見直し、日々の保育実践に活かすことに繋がった。	4
情報提供・保護者・地域との連携	保護者への情報提供は、園日より、クラス日よりクラスボード等で伝えた。HPでも子どもの様子を発信した。今後も工夫していききたい。	3
小学校との接続・連携	小学校からの来園で子どもの様子を共有できた。小学校との交流会にも参加し就学に向け期待して過ごすことに繋がっている。	3
子育て支援	未就園児の園開放を実施する。子育ての不安や悩みが相談できるよう保護者に寄り添うことに努めたが、今後も支援の仕方が課題となる。	3
食育の推進（給食）	調理員と担任とが協力し合い、食育計画を立て栽培から収穫、調理、クッキングを通して食に対する興味・関心を育てることができた。	4
食事の提供（調理）	アレルギー食提供は、調理員同士、調理員と担任が連携をし、確認して安心、安全な給食提供に努めた。	3

#### 4. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

今年度の研究テーマで研修を進めた。職員間の対話を重ねることで、子どもの思いに寄り添い丁寧に受け止める内面理解の大切さ、援助の在り方、言語環境の工夫において新たな気付きをもつことができた。また、「保育指針」を読み解きながら、発達の過程を捉え保育を振り返ることで、保育を再構成し次の保育実践へ活かすことができたように思う。保育者同士での学び合いにより援助が深まることで、子どもの言語での表現の育ちにも繋がっている。今後も、子どもが安心して自己表出できるよう発達の過程を理解し、一人一人の子どもの育ち、興味・関心を丁寧に捉え、子どもが主体性をもちながら友達と関わり遊び込める、心をゆさぶる保育の充実を目指していくことが課題である。

異年齢児での活動は、年間を通して継続する中で、クラスの異なる友達へ親しみ関わりをもつことに喜びを感じ過ごしている。お互いに思いやりや憧れの気持ち、友達を受容する姿が見られ心の育ちに繋がっている。

保護者アンケートにより子どもについての相談が気軽にできるかどうかでは十分でない回答結果となっている。今後、子育て支援の課題となる。

#### 5. 評価結果を受けての具体的改善方策等

子育て相談におけるアンケート結果からも保護者との信頼関係の構築に努め、園での子どもの様子が十分に伝わるようにわかりやすく発信し、子どもの成長を保護者と共に喜び合える関係を築くことが必要である。子育てについて保護者の必要な時に相談しやすいように、職員が連携をもち安心感、信頼感のある園づくりを目指したい。家庭での基本的な生活習慣の定着についての意識が低い結果も出ている。子ども達の健康で健やかな成長を支えながら、園と家庭が連携しながら生活リズムの確立を図っていききたい。

園は、子どもの気持ちを大切に保育しているかの項目では、保護者からの評価が高い。職員間での連携を大切に温かい環境の中で、子どもの内面に寄り添い思いをしっかりと受けとめながら保育の充実に努めたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である